

領域	認証評価基準	観点	自己点検・評価内容	根拠として必要な資料	業務実施・資料提出	担当(副校長・センター長)	自己点検・評価委員会による評価 ○＝満たす、△＝改善要、 ×＝不十分	優れた点
領域1 教育の内部質保証システム	基準1-1【重点評価項目】 内部質保証に係る体制が明確に規定されていること	観点1-1-① 教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的な自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備されていること	(1)学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針が定められていることを確認する。 ○自己点検評価の目的、対象、統括する委員会、実施頻度、結果公開を規定すること。	自己点検・評価及び評価に関する基本方針が明示されている規程等	資料1-1-1-(1)-01.自己点検・評価委員会規則 資料1-1-1-(1)-02.自己点検・評価シート(プレ審査用のもの) 資料1-1-1-(1)-03.自己点検・評価実施基準に関する申合せ 資料1-1-1-(1)-04.自己点検・評価実施基準に関する申合せ(別表2 自己点検・評価体制図) 資料1-1-1-(1)-05.自己点検・評価、外部評価及び第三者評価の実施方針に関する規則	副校長(総務主事)	○	令和7年度に自己点検・評価の方針を改定し、認証評価の評価基準を元にした評価方法をスタートさせた。
領域5 準学士課程の教育活動の状況	基準5-6 CPに基づき、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること	観点5-6-③ 成績評価基準に基づき各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること ○過去の機関別認証評価では、この観点について改善を要する点と指摘された受審校がきわめて多いことを考えると、2年から3年に欠けて全科目をチェックするような調査方法も考えられます。 この組織的な措置を毎年継続することを推奨します。	■試験問題のレベルが適切であることのチェック ○成績評価を絶対評価で行っている場合、相対評価のような成績分布にならないことは前提としつつ、チェック方法の一例として、例えば、評価分布を算出し、分布に著しい偏りが検出された場合、教育内容や試験の質を改善するきっかけとすることも考えられる。 このことは、成績評価の一貫性が保たれ、学生間の不公平感を軽減するというメリットがあると考えられる。	学校として組織的に取り組んでいる内容が確認できる資料(全ての項目について、どのようにチェックするかが記された規程等、前年度のチェック結果が確認できる資料) 同一の試験問題が使われていないことの確認に関し、評価実施の前年度に行った組織的な措置が確認できる資料(関係の会議資料、議事録、(あれば)是正措置が行われたことを確認できる資料)	資料5-6-3-(1)-01.教員相互による定期試験問題等のチェックに関する申合せ 資料5-6-3-(1)-02.成績資料(本科・専攻科)保存と相互チェック実施要領 資料5-6-3-(1)-03.定期試験問題等相互チェックシート 資料5-6-3-(1)-04.成績分布図 高分子材料工学 資料5-6-3-(1)-05.系・部における成績資料に関する改善協議結果報告書	副校長(教務主事)	○	同じ試験問題が繰り返されていないことのチェックにおいて、同一問題と思われる問題についての協議、改善報告がなされており、チェックシステムが有効に機能していることが伺える。